

全林研会長賞

埼玉県

嵐山町林業研究会

所在地 > 埼玉県比企郡嵐山町

設立 > 平成47年2月

会員 > 男76人 女3人 年齢 > 41歳～95歳 平均72歳

主なプロジェクト

◆ 間伐等の普及啓発と美化活動を通じた美しい山づくりへの取り組みを推進

☒ ゴミ捨て防止運動を通じた美しい山づくりへの取り組みを推進 ☒

1. 地域の概要

比企郡嵐山町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、比企丘陵と呼ばれる標高100～200m前後の緑豊かな丘陵と、首都圏から約60km圏に位置する、人口約1万8,400人ほどの自然環境に恵まれた町です。また、木曾義仲や畠山重忠など、平安末期から鎌倉時代にかけて日本史に名をとどめた坂東武者ゆかりの地でもあります。

道路では、国道254号線、関越自動車道、鉄道では東武東上線が町の東西を走り東京並びに近隣市町村を結んでいます。関越自動車道では、追加インターとして平成16年3月に「嵐山小川インターチェンジ」が開通しました。鉄道では、平成14年3月の東武東上線の複線化に伴い「武蔵嵐山駅」の橋上駅舎が実現し、池袋から約1時間ほどの当町に多くの利便性をもたらしました。

町名の由来は、昭和3年にわが国最初の林学者である本多静六博士が、都幾川と槻川の合流地の湫谷を訪れ、その眺めが「京都の嵐山に似ている」と感動してその一帯の丘陵を武蔵嵐山と名付けました。その後、「嵐山」は町制施行時に町名とされました。

嵐山町は、面積の約32%を森林が占め、人工林の割合は約17%と低く、雑

木林の多い地域です。また、住宅団地や工業団地等、都市化の進行が著しい地域でもあり、さらに不動産業者による土地の動きが多い場所柄で、そのため町内の森林は経済林としてのみならず、環境林としての要請も高くなっています。

2. 林業研究会発足の経緯

私たちの嵐山町林業研究会は、昭和47年に町内の森林組合が解散したのに伴い、町の林業施業の継承と発展を目指して、自主的な団体として発足しました。

薪炭林として戦前から利用されてきた雑木林は、昭和40年代以降の急速な都市化の進展により、荒廃し、さらには町内の森林の半分を占めていたアカマツ林は、松くい虫によりほぼ全滅状態になってしまいました。

こうした中、郷土の山と緑を守るため、スギやヒノキの造林を進めながら、山林所有者に林業に少しでも関心を持ってもらうよう活動を続けてきました。昭和55年のピーク時には200人を超える会員がいましたが、森林管理に対する意欲の低下や高齢化等によって会員数は年々減少傾向にあり、現在は会員が80名ほどとなってしまいました。

3. 活動状況

当林業研究会では、従来から造林や育林の啓蒙を推進してまいりました。近年では、定年後に山へ興味を持ち始めた人が森林管理に参加してくれるなどの意識改革につながることを期待して、林業先進地等を視察する研修会を開いたり、森林整備活動を行っています。

視察研修の他に、会の事業として40年生のスギ・ヒノキの町有林6.7haの下刈りを会員の実習も兼ねて行っており、あわせて県林業事務所からの森林管理についての講習なども交えて、林業技術の向上に努めています。また、昭和51年度から実施していた育林コンクールの開催は、現在は対象となる造林地の不足により開催が見送られていますが、造林地の保育技術向上を図り、造林効果の確保と所有者の造林意欲の高揚を図ることを目的としています。

産業祭として、町全体で一年に一度開催される嵐山まつりには、林業研究会の活動を町民に紹介するとともに、森林・林業への関心を少しでも高めてもらうことを目的として、平成5年度から参加をしています。会場では、林産物等の展示販売、小中学生を対象とした木工工作教室を実施してきています。

町内のスギ・ヒノキは比較的林齢の若いものが多くあります。前述したとおり昭和53年頃から急速に拡大した松くい虫被害により、昭和47年に町の山林のほぼ半分の419haを占めていたマツの純林が昭和60年代にはほとんど食い尽くされたため、樹種転換として毎年スギ・ヒノキを植えてきたためです。樹種転換による下刈り作業を行う際、会員たちを悩ますのが林内に散乱するゴミでした。そのため、ゴミ拾いも大事な活動になりました。ゴミは道路沿いに集中して捨てられており、中には専門業者に頼まざるを得ないものもありました。この地域は里山の割合が高く、道の整備もされているため、手入れがされていない暗い山林にはゴミ捨てが後を絶たない状況です。山林に人の手が入れば、手入れをされた山林自体が監視の目、抑止力となり、「きれいにしていれば、捨てていく人も少なくなる。荒れているから余計に荒れてしまう。」とゴミ捨て防止を目的とした活動が、ひいては町全体の山林の美化に繋がることを期待しています。

4. 今後の活動及び展開

林業を取り巻く状況は決して良いものではありません。森林所有者の高齢化、森林整備への意欲減退など、さまざまな問題が山積している状況であります。間伐の行き届いた森林や間伐の必要性を伝えるパンフレットを配布するなど普及啓発活動を行うことにより、これらの林家の方々が経営への関心・意欲をもち、さらには必要な施業も実行することになれば、ゴミのない山、整備された美しい山が町全体に広まり、林業は変えられるのではないのでしょうか。一人ひとりが変われば林業も変わります。それには、どうすれば山の活気を取り戻すことができるのか、山積されている様々な問題を地域の実情に合わせて加味しながら取り組んでいきたいと考えております。